

F 高校 ～校内組織の整備, 地元の事業所と直接連携～



校内に総合的な探究の時間運営委員会を設置し、校内の推進体制を整えるとともに、運営委員会の担当が地元の OB・OGなどと連携しています。



探究と進路選択

F 高校の総合的な探究の時間（以下「総探」）は、1 年生はグループ探究、2 年生は個人探究、3 年生の進路選択につながっていくという特徴がありました。

1 年生では、地域にある事業所から出された課題の解決に向け、探究します。事業所訪問に行くことができるよう、生徒が総探に取り組みやすい校内体制も整っています。生徒は、中間発表、最終発表という過程を踏み、探究を深めていきます。

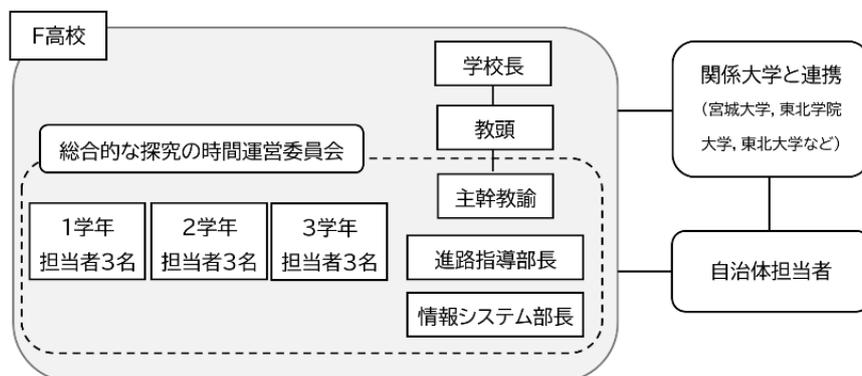
2 年生では、各自の興味・関心や将来やりたいことに基づき、個人で探究に取り組みます。課題の内容に応じて「文学・語学」「経済・経営」「医学・薬学」「国際」などの学問分野グループに分かれ、担当教員や地域の専門家に助言をもらいながら探究を進めていきます。2 年生の探究は行動範囲や情報収集の方法の幅が広がり、探究的な学びの質が高まってきます。2 年間の探究を通して見つめた自己の生き方・在り方が3 年生での進路選択へとつながっていきます。

総探委員会の活用

総探の本格実施に合わせ、校内組織の中に「総探委員会」が設置されています。この委員会に所属する教員が中心となって全体計画を立案し、その計画に基づいて各教員が実践しています。生徒の組織の中にも「総探進路委員会」が設置され、その委員の生徒が中間発表会で司会を務めるなど主体的に総探に取り組むための環境が整えられています。

卒業生の活用

F 高校では上記の学習活動を進めるに当たって、地元の卒業生とつながり、その協力のもと学習を進めています。この人材ネットワークの構築は、総探委員会の教員が積極的に行い、生徒のニーズに答えながら人選しています。卒業生は情報の収集に協力したり、中間発表会や最終発表会へ出席して発表に対し評価や助言をしたりするなど、連携体制が整っています。



F 高校 総合的な探究の時間 校内組織図